

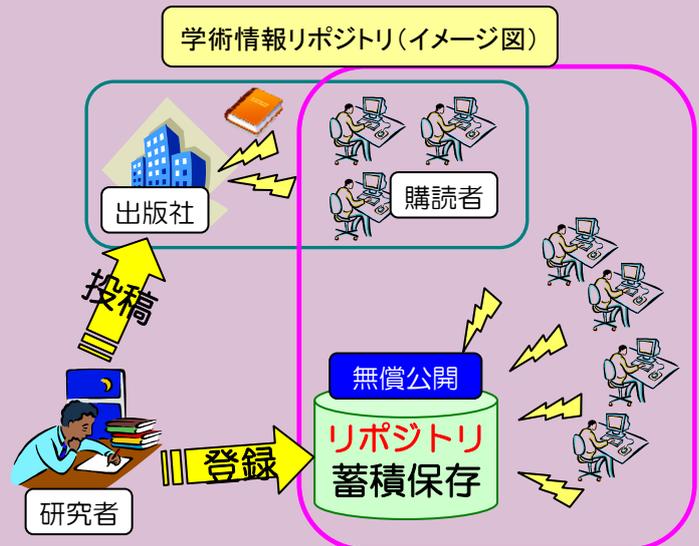


リポジトリのいいところ

前号では「香川大学学術情報リポジトリ」とは何かということについてお話ししました。香川大学内で生産された研究成果物のうち電子化されたものを、蓄積保存し、インターネット上で無償で公開するシステムのことですね。ではいったい、この「リポジトリ」とは、何のためにあるのでしょうか。どんないいところがあるのでしょうか。

蓄積保存し、インターネット上で無償で公開するということにポイントがあります。

蓄積保存 —— 例えば、既に個人のパソコンに保存していたり、ホームページを通じて研究成果を発信しておられる研究者の皆さんもいらっしゃると思います。ただ、個人レベルでは恒久的に残しておくことは難しいのではないのでしょうか。せっかくの研究成果です。大学としてもぜひとも保存しておきたいと考えています。リポジトリに登録していただければ、大学が責任を持って蓄積保存します。URLも変わりませんので、ご自分の業績をまとめて残しておくのにも役立ちますね。



インターネット上で無償公開 —— 研究者の皆さんが論文などをお書きになるのは、何のためにでしょうか。コツコツと積み重ねてこられた研究の成果をまとめて、ひとりでも多くの人に読んでもらいたい、きっとそう思われていると思います。

「論文なら雑誌に投稿して、その出版社から電子ジャーナルなどで公開されているので問題はない。」とおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが。ただし多くの雑誌は有料です。誰でもが読めるものではありません。かといって、決して出版社に対抗しようとするものではありません。

学術雑誌に投稿すると共に、リポジトリに登録しておけば、人の目に触れる機会がより多くなります。より多くの人に、皆さんの研究成果を届けたい — それがリポジトリの願いです。先行館に伺ったところ、実際にリポジトリで公開している論文にアクセスしてくる入口は、Google検索によるものが一番多いそうです。

なお、出版社に投稿した論文を著者が公開するに当たっては、著作権譲渡の問題が絡んできます。そのことについては次号でお話しします。



～讃岐の地から、知のチカラ～

問い合わせ先：repo@ao.kagawa-u.ac.jp

http://www.lib.kagawa-u.ac.jp/www/repository/repo_index.html